

2009年ワールドゲームズレポート

(元原稿は2009.07.17と07.25にブログに掲載した記事)

ワールドゲームズいよいよ開幕

台湾はワールドゲームズ(WG)歓迎ムードで大盛り上がり。

空港に着いたらWG専用レーンがあり、並ばずにパスポートコントロールを通過できる。



空港にも新幹線の駅にもボランティアがたくさんいてどんな小さな要望でも聞き逃さずに対応してくれる。新幹線に安く乗れるチケットももらえる待遇のよさ。国を挙げて歓迎してくれているのが分かる。新幹線(台湾高速鉄道)は日本の新幹線とほとんど同じ作り。席の前に貼ってる車両案内とかコート掛けとか細かなところまで同じだから外国の列車に乗っている感じがしない。町の中は看板、垂れ幕、幟とWGのサインだらけ。



台湾新幹線とWGのサイン

台北の空港から開催都市の高雄までは順調だったけど高雄市内の交通混雑とエントリー受付などで結構時間がかかった。なので、開会式参加は断念。残念。



ホテルで開会式をテレビ観賞

台湾はファミマに吉野家、センチュリー21(21世紀不動産!)など日本にある店も多く、またその店で売られている商品も日本のビールやお菓子が日本語のまま売られていたりする。普通の商店にも日本語の看板がかかっていたり、広告に出ているモデルも日本人だったり、テレビでやっているアニメも日本のだったり。走っている車も日本車が多いし、なにより町中にホンダとスズキの原チャリが溢れている。ポーっとしていると日本にいるような気さえする。でも車が右側を走っていて、話している言葉は違うし、建物の造りの細かなところとか日本と違うところは確実にあってなんだか不思議な空間。

とにかくボランティアの皆さんのホスピタリティに感激。そんなわけでこれからレースに行ってきます。



今朝のモデルイベントにて

ワールドゲームの果て

成田から家路に着く途中で、友人や職場に買って来た土産を入れた紙袋を丸ごと失くした。そんなに疲れていたわけでもないのに、余計なことばかり考えてボーっとしていたのだろうか。

そんな失態がすべてを象徴するような苦しい経験となったワールドゲームズ。

残った結果はスプリントでの 33 位のみ。

これまでは負ける気もしなかった台湾の選手に走りでも完全に負けていた。今大会に向けてスプリントに特化した選手を起用してきた。全体から見れば、最下位争いに甘んじているので、その試みが今大会で成功したと言ってよいのかはわからない。

が、中国に引き続き、集中と選択をしてきたアジアのライバルたち。日本だけが今のままでよいのか、という危機感を持っている。

弱音を吐き出せばいくらでも出せてしまう。が、それはすべてが終わった後に。辛いときこそ課題は明確に浮かび上がるものだ。

ただ1つ書いておきたいことは中途半端にやっているから痛い目を見るということ。

本気で結果を欲するならば、今までのやり方を超えなくちゃ変わらない。そしてそれはやってないだけで足を踏み出せばできること。

選手たちはどんな目標をもっているのか。その目標は将来のどんな夢につながっているのか。その夢はオリエンテーリングの何になっていくのか。そんなことを発信していくのもチーム JAPAN としては必要なこと。

代表チームは一部の人々がやっていること、ではなくて日本のオリエンテーリング界が戦っていること、そんな環境・雰囲気をもっと築いていきたい。このまま出続けるだけでは何の意味ももたない。

なんだかんだいって日本のオリエンティア人口は絶対数から言えば実は世界的には多い方だと思うようになってきた。

このヒューマン・リソースを活かせばもっとできることは多いはず。オリエンテーリングだけで食べていける人がもっといてもいいはずだ。

来月の世界選手権もぜひ注目！そして来年のアジア選手権でまずは雪辱を果たしたい。

応援ありがとうございました。



リレーでスタートする加藤



スプリントスタート直前の皆川